

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	チャイルドハート小城		
○保護者評価実施期間	R7年 11月 25日 ~ R7年 12月 25日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数)
○従業者評価実施期間	R7年 11月 25日 ~ R7年 12月 25日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 10日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・運動療育やワークが充実している。	・マンツーマンで対応することで、児童様に合わせた対応や支援が実施出来ている。 ・ボールやマット運動、ボルダリングを使用し、身体を動かす活動を積極的に取り入れている。	・就学前に、一人で出来る身辺動作を増やし、文字の読み書きも出来るよう、学習面の支援も実施していく。
2	個別指導で充実した支援が出来る。	・児童さま一人につきスタッフが一人ついて支援が出来る。手厚い支援が出来ることで、本児の苦手や得意を把握しやすく、的確な支援の提供に繋がる。	・トイレのやり方などを学び、就学までにトイレの自立を促せるよう支援する。 ・他事業所で行われている支援や取り組みを取り入れていく。
3	・保育士が3名在籍しているため、幅の広い療育が提供できる。	・朝の会時に読み聞かせや手遊び、感覚遊びなどを提供している。	・季節のイベント、外遊びももっと増やしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	発語に関する支援や知識が少ない。	・専門的職員が不在。	・専門的支援が出来る職員を採用する。 ・他事業所に在籍する専門職員と交流を図り、知識の共有を行う。 ・本部主催の専門部会に参加し、知識を得る。
2	・スケジュール、絵表示、ワークなどのバリエーションが少ない。	・スケジュールや絵表示など視覚的支援を必要とする児童様の数が少ない。	・研修や交流会で、スケジュールや絵表示、ワークに特化している他事業所から知識やヒントを得る。
3	・児童発達支援の受け入れ時間が平日の午前中のみ。	・放課後デイのお友達の人数が多くて、平日以外に受け入れが出来ない。 ・児童発達支援の児童様の契約が少ない。	・少ないご利用日数や時間で、いかに充実した支援が出来るか、今後も対応や内容を検討していく。 ・徐々に放課後デイの児童様の数と児童発達支援の児童様の数が均等になるよう契約数を調整する。

公表

事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	チャイルドハート小城			
○保護者評価実施期間	R7年 11月 25日 ~ R7年 12月 25日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数)	21
○従業者評価実施期間	R7年 11月 25日 ~ R7年 12月 25日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 10日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・若いスタッフが多く、身体を動かす遊びの内容や種類が多い。	・走れるスタッフが全力で児童様と遊び、関わり、接することで、児童様とより良い関係性を築けている。	・怪我に細心の注意を図り、事前の準備運動や環境設定を行うことで、事前対策をしていきたい。
2	・活動内容が豊富で、お出かけやイベント、製作活動、調理活動など幅が広い。	・活動がマンネリ化しないよう、スタッフ同士定期的にミーティングを行い、意見交換会を実施している。 ・他事業所さまの活動内容やSNSをチェックし、良い所は取り入れるようにしている。	・これまで取り組んだことがない活動やイベントを今後も検討し、取り組んでいく。
3	・保護者様や関係機関との連携が強い。	・アネシスやメッセージアプリを使用し、いつでも気軽に連絡が取れるようにしている。 ・毎日の送迎時や、定期的な面談を通じて、保護者様と連絡を取り、信頼関係を築いている。	・毎年の保護者会を継続していきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・個別で活動できるスペース（個室）が少ない。	・テナントゆえに、そもそも構造が要因。	・ブレイルームを時間や活動ごとに区切って、児童様が安全かつストレスなく活動できるよう環境設定を行う。 ・クールダウンは相談室（鍵付きの個室）にて実施する。
2	・スケジュール、絵表示、ワークなどのバリエーションが少ない。	・スケジュールや絵表示など視覚的支援を必要とする児童様の数が少ない。	・研修や交流会で、スケジュールや絵表示、ワークに特化している他事業所から知識やヒントを得る。
3	・重度の障がいを持たれている児童様への専門的な支援や知識が少ない。	・重度の障がいを持たれている児童様が少ない。 ・特別支援学校で勤務経験のあるスタッフがいない。	・研修や交流会で、重度の障がいを持たれている児童様も主に支援されている他事業所から知識や対応を学ぶ。 ・特別支援学校の教員の方々と支援会議や情報交換を実施し、必要な対応、適切な対応を学ぶ。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	チャイルドハート小城				公表日 R8年 2月 15日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境 ・ 体 制 整 備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		・ブレイルーム、学習室、相談室と分かれている、児童数や状況に応じて使い分けを行っている。	
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		・不足が無いよう配置している。全員有資格者なので、専門性ある支援を心がけている。	・もう一人有資格者の正社員を採用出来たら、スタッフの有休や公休希望を通しやすくなると思う。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	2	・児発の利用者様には絵カードやスケジュールなど視覚的な支援も実施している。	・テナントの為、自主的な改修等が出来ない。エレベーターがない。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		・毎日、室内と送迎車内の整理整頓と清掃を実施している。	
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		・ブレイルーム、学習室、相談室と分かれている、児童数や状況に応じて使い分けを行っている。	
業務 改 善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		・毎日2回のミーティングや月に一回の事業所内ミーティングで情報共有や振り返りを実施している。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		・毎年、保護者様アンケートを実施している。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		・日々のミーティングの際に、意見交換や情報共有を実施している。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8	・第三者評価は実施していない。	・義務ではないので、今後も導入する予定はない。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		・合同ミーティングや本部研修など月に2～3回の頻度で研修を実施している。	・今後は外部からの研修も導入していきたい。
適 切 な 支 援 の 提	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		・R6年12月に作成と公表を行い。保護者様にも周知を実施している。	
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		・3～6か月に一回アセスメントを取り、モニタリング実施を行い、児童様の特性に合わせた計画を作成している。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		・スタッフと会議を実施し、現場の意見等も取り入れて計画を実施している。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		・いつでも確認できる場所に保管し、更新ごとにスタッフにも周知を行っている。	・更新ごとに、全スタッフに共有することを今後も継続していきたい。
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		ご利用前の児童様の園とスタッフで情報共有を行い、ご利用開始後も日々アセスメントを取りながら支援を実施している。	・学校や保護者様と連携を取り、その都度必要なツールを導入していきたい。
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		・スタッフと児発管が定期的にアセスメントを取り、保護者様とも面談を行い、その子に合った計画や目標を設定するように意識している。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		・イベント係を中心にスタッフ全員が意見、提案できる会議の場で活動プログラムを計画している。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		・長期休暇などはイベントや外出活動を計画し、室内と室外でバランスよく活動出来るよう工夫している。	・今後も飽きやマンネリ化を防ぐために、児童様から活動の希望を聞いていく。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		・児童様の状況に応じて活動を変更したり対応を行っている。	・学年の入れ替わりにその都度対応した活動を計画したい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		・毎朝、スタッフ間でミーティングを行い。その日ご利用される児童様の状況確認や打ち合わせを実施している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		・毎日、支援後にスタッフ間でミーティングを行い、その日の活動の振り返りや児童様の情報共有を実施している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		・日々、日誌や連絡帳に記録を記載して保管している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		・3~6か月に一回アセスメントを取り、計画を作成している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		・児発管だけでなく、日頃支援に携わっている現場スタッフも同行するようにしている。同性スタッフが参加することもある。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		・協力医療機関、市町村、各学校と必要に応じて連携を取っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	1	・ご利用開始前、事業所退所前など定期的に関係機関と情報共有の会議を実施している。	・今後も積極的に会議等に参加していきたい。児発管だけでなく、現場スタッフも同行してもらうようにする。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		・就学前に、保育所や小学校の関係者と支援会議を実施している。	・今後も積極的に会議等に参加していきたい。児発管だけでなく、現場スタッフも同行してもらうようにする。
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	8		地域の児童発達支援センターとの連携はほとんど無いが、チャイルドハート本部SVから定期的に研修や指導を受けている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか。	3	5	・ほぼ実施していない。公園や外出先で触れ合う事は稀にある。	・実施したい気持ちはあるが、人数や時間を考慮すると現実的には難しいと思う。
	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		・毎回のご利用後に連絡帳や送迎時に活動内容の報告や、情報共有を実施している。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	2	・保護者様から相談等があった際は真摯に迅速に対応している。声掛けの仕方などを伝えている。	・今後は加算として取っていきたいと思う。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		・必ず、契約時に必要事項は全て保護者様に直接お伝えしている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		・計画を作成する前に保護者様に今後の支援の方向性や意向を確認している。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		・モニタリングに必ず保護者様に計画の説明を行い、同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		・保護者様から相談等があった際は真摯に迅速に対応するよう心がけている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8		・年に1回、保護者会を開催し、保護者様同士の交流の場を設けている。毎回10名以上参加されている。	・現状は年に一回なので、年に二回の開催を目指していきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		・保護者様から相談等があった際は真摯に迅速に対応している。利用日の変更や調整も実施している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		・毎月、広報を作成し、その他にもブログやインスタグラムを更新し、児童様の活動のご様子をお伝えしている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		・鍵付きの書庫で厳重に保管している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		・配慮を行っている。声掛けを増やしたり、表示方法を工夫している。	・児童様の成長段階に合わせてツールをレベルアップさせたり、手法を変更するなど、臨機応変に対応していきたい。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8		・現状、出来ていない。	・実施したい気持ちはあるが、人数や時間を考えると現実的には難しいと思う。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		・各種マニュアルを作成し、契約時や更新時に必ず保護者様に周知を行い、定期的に訓練や研修も実施している。	
非常時の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		・BCPを作成し、契約時や更新時に必ず保護者様に周知を行い、定期的に訓練や研修も実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		・契約時や半年ごとのモニタリング時に服薬状況を必ず確認し、スタッフ間で共有している。	・エビペンの使用法などは全スタッフで共有していく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		・契約時や半年ごとのモニタリング時に服役状況を必ず確認し、スタッフ間で共有している。	・今後も必ず全スタッフで注意をしていきたい。特におやつ購入や食事提供は気を付けていきたい。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		・安全計画を作成し、月ごとに点検や訓練等を実施している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		・各種マニュアルを作成し、契約時や更新時に必ず保護者様に周知を行い、定期的に訓練や研修も実施している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		・ヒヤリハット報告書を作成し、毎日のミーティングで共有と振り返りを実施している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		・定期的な研修を実施し、年に4回スタッフ間でアンケート調査を実施している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行つかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8		・契約時に施錠などの説明を保護者様に実施し、重要事項説明書にも記載をしている。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	チャイルドハート小城	公表日	R8年2月15日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		・プレイルーム、学習室、相談室と分かれています。児童数や状況に応じて使い分けを行っている。	
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		・不足が無いよう配置している。全員有資格者なので、専門性ある支援を心がけている。	・もう一人有資格者の正社員を採用出来たら、スタッフの有休や公休希望を通しやすくなると思う。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	2	・児発の利用者様には絵カードやスケジュールなど視覚的な支援も実施している。	・テナントの為、自主的な改修等が出来ない。エレベーターがない。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		・毎日、室内と送迎車内の整理整頓と清掃を実施している。	
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		・プレイルーム、学習室、相談室と分かれています。児童数や状況に応じて使い分けを行っている。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		・毎日2回のミーティングや月に一回の事業所内ミーティングで情報共有や振り返りを実施している。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		・毎年、保護者様アンケートを実施している。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		・日々のミーティングの際に、意見交換や情報共有を実施している。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8	・第三者評価は実施していない。	・義務ではないので、今後も導入する予定はない。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		・合同ミーティングや本部研修など月に2～3回の頻度で研修を実施している。	・今後は外部からの研修も導入していく。
適切な支	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		・R6年12月に作成と公表を行い。保護者様にも周知を実施している。	・定期的に見直しをしていく。
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		・3～6ヶ月に一回アセスメントを取り、モニタリング実施を行い、児童様の特性に合わせた計画を作成している。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		・スタッフと会議を実施し、現場の意見等も取り入れて計画を実施している。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		・いつでも確認できる場所に保管し、更新ごとにスタッフにも周知を行っている。	・更新ごとに、全スタッフに共有することを今後も継続していきたい。
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		ご利用前の児童様の園とスタッフで情報共有を行い、ご利用開始後も日々アセスメントを取りながら支援を実施している。	・学校や保護者様と連携を取り、その都度必要なツールを導入していきたい。
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		・スタッフと児発管が定期的にアセスメントを取り、保護者様とも面談を行い、その子に合った計画や目標を設定するように意識している。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		・イベント係を中心にスタッフ全員が意見、提案できる会議の場で活動プログラムを計画している。	

援 の 提 供	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		・長期休暇などはイベントや外出活動を計画し、室内と室外でバランスよく活動出来るよう工夫している。	・今後も飽きやマンネリ化を防ぐために、児童様から活動の希望を聞いていく。
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		・児童様の状況に応じて活動を変更したり対応を行っている。	・学年の入れ替わりにその都度対応した活動を計画したい。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		・毎朝、スタッフ間でミーティングを行い。その日ご利用される児童様の状況確認や打ち合わせを実施している。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		・毎日、支援後にスタッフ間でミーティングを行い、その日の活動の振り返りや児童様の情報共有を実施している。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		・日々、日誌や連絡帳に記録を記載して保管している。	
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		・3~6か月に一回アセスメントを取り、計画を作成している。	
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	8		・可能な限り網羅するような外出活動、イベント活動を計画している、	
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8		・おやつ購入や昼食購入体験等で自己選択の機会を設けている。	
	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		・ご利用開始前、事業所退所前など定期的に関係機関と情報共有の会議を実施している。	・今後も積極的に会議等に参加していきたい。児発管だけでなく、現場スタッフも同行してもらうようにする。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		・地域の事業所と定期的に会議を開催している。協力医療機関とも定期的に連携を取っている。	
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		・毎回、下校時に学校の先生と引き渡し、引き継ぎを実施している。	
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8		・就学前に、保育所や小学校の関係者と支援会議を実施している。	・今後も積極的に会議等に参加していきたい。児発管だけでなく、現場スタッフも同行してもらうようにする。
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8		・移行前に、関係機関で集まって会議を開催している。	
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8		地域の児童発達支援センターとの連携はほとんど無いが、チャイルドハート本部SVから定期的に研修や指導を受けている。	
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	3	・公園活動で居合わせた地域の子どもと遊ぶことはあるが、事前に打ち合わせをして交流することはない。	・時間帯や活動レベル的に難しい場合もあるが、検討をしていく。
	33 (自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	6	2	・これまで小城市に部会が無かったので、佐賀市まで足を運んでいた。	・令和8年1月から参加している。
	34 曜日から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		・連絡帳や送迎時に毎日のご様子や最近のご様子を共有している。	
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレンツ・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	2	・保護者様から相談等があった際は真摯に迅速に対応している。声掛けの仕方などを伝えている。	・今後は加算として取っていきたいと思う。
	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		・必ず、契約時に必要事項は全て保護者様に直接お伝えしている。	
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		・計画を作成する前に保護者様に今後の支援の方向性や意向を確認している。	
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8		・モニタリングに必ず保護者様に計画の説明を行い、同意を得ている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		・保護者様から相談等があった際は真摯に迅速に対応するよう心がけている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8		・年に1回、保護者会を開催し、保護者様同士の交流の場を設けている。毎回10名以上参加されている。	・現状は年に一回なので、年に二回の開催を目指していきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		・保護者様から相談等があった際は真摯に迅速に対応している。利用日の変更や調整も実施している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		・毎月、広報を作成し、その他にもブログやインスタグラムを更新し、児童様の活動のご様子をお伝えしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		・鍵付きの書庫で厳重に保管している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		・配慮を行っている。声掛けを増やしたり、表示方法を工夫している。	・児童様の成長段階に合わせてツールをレベルアップさせたり、手法を変更するなど、臨機応変に対応していきたい。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		8	・現状、出来ていない。	・実施したい気持ちはあるが、人数や時間を考えると現実的には難しいと思う。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		・各種マニュアルを作成し、契約時や更新時に必ず保護者様に周知を行い、定期的に訓練や研修も実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		・BCPを作成し、契約時や更新時に必ず保護者様に周知を行い、定期的に訓練や研修も実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		・契約時や半年ごとのモニタリング時に服薬状況を必ず確認し、スタッフ間で共有している。	・エビペンの使用法などは全スタッフで共有していく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		・契約時や半年ごとのモニタリング時に服薬状況を必ず確認し、スタッフ間で共有している。	・今後も必ず全スタッフで注意をしていきたい。特におやつ購入や食事提供は気を付けていきたい。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		・安全計画を作成し、月ごとに点検や訓練等を実施している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		・各種マニュアルを作成し、契約時や更新時に必ず保護者様に周知を行い、定期的に訓練や研修も実施している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		・ヒヤリハット報告書を作成し、毎日のミーティングで共有と振り返りを実施している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		・定期的な研修を実施し、年に4回スタッフ間でアンケート調査を実施している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行ふかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8		・契約時に施錠などの説明を保護者様に実施し、重要事項説明書にも記載をしている。	